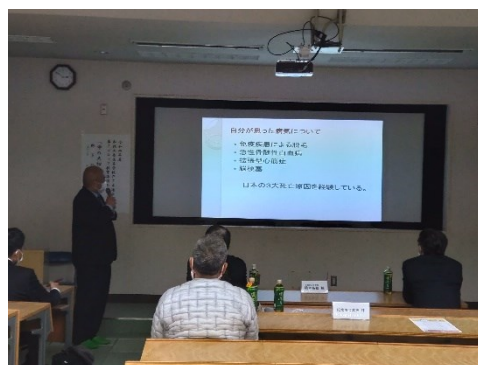


和歌山県高等学校 PTA 連合会 第 1 ブロック教育講演会に参加して

和歌山県立粉河高等学校
体育文化後援会長 平野和夏

平素は、粉河高等学校 PTA 活動に格別のご理解・ご協力を頂き誠にありがとうございます。

さて、令和 4 年 1 2 月 9 日（金）笠田高校で行われた教育講演会に参加してきました。講師の松下公昭先生は、今現在、橋本市立あやの台小学校の教頭先生をされている方で、37歳の時に「急性骨髄性白血病」を発症されたそうです。当時は中学校 3 年生の担任を受け持っており、耳鳴りが



ひどく修学旅行を控えていたので、特に重く考えずに念のため血液検査を受けたところ、修学旅行前日に緊急入院になったそうです。しかも、奥様は第 2 子が妊娠 7 か月の時と聞き、幸せと苦悩がいつぱんに・・・と思いました。

白血病は血液の癌と言われており、非常に再発のしやすい病気だと聞いていました。抗がん剤の投与により、脱毛や口内炎で水も飲めない状態になり、とにかくだるいとも話されていました。もし自分がその立場なら、どうだっただろうと考えましたが、答えを見つけることができませんでした。ただ一つ、なぜ？ どうして？ 私が？ 今？ と思ったという話を聞いたときは、同じ人間などと少し安堵してしまいました。

でも、そう言いながらもすぐに、「治るんやったら、なんでもする」と転換したのは本当に尊敬します。抗がん剤の副作用にも、その強い気持ちで乗り越えていかれたとのこと。松下先生の主治医も非常に前向きな考えの医師のようで、「治るよ」の一言がどれほど心強かったかはお話を聞いていて納得しました。だからこそ、今できる活動に積極的に参加されているとのことで、お話を聞いていても、松下先生のポジティブな考え方に関して、大変感心させられました。

ただ、今も松下先生の病魔との戦いは続いているそうです。このような経験をされている松下先生の言葉は、どんな本を読むよりも生きた言葉だと思います。

先生は、「自分の命の大切さとは？ 命の大切さを教育の中でどのように伝えていくか？」を今後の課題にしていくそうです

これからも、松下先生を見守り、応援していきたいと思っております。